

議題提案書

- 【 】 協議事項
- 【●】 報告事項

議題名： ODA 広報（国際協力 70 周年記念事業の実施報告）

【提案者氏名、所属】

氏名： 中野 渉

所属： 国際協力局政策課

【議題提案の背景】

ODA は国民の税金を原資としていることから、開発協力の意義と成果、国際社会からの評価等について国民へのわかりやすい説明が求められており、ODA 広報の重要性は高まっている。

2024 年は、日本が ODA を開始してから 70 年の節目に当たる。外務省では、この節目の年を、これまで ODA が果たした役割を振り返りつつ、これからの国際協力について幅広く国民の皆様と考える機会とするべく、JICA 等関係機関と連携し、国際協力イベント等、各種の記念事業を実施してきている。

その他、国内外における広報活動について御報告するもの。

【議題論点】（ODA 政策協議会で報告・議論したい点）

国際協力 70 周年を記念して、3 月に神戸で開催された「国際協力 70 周年記念 キックオフ・イベント in KOBE」を皮切りに、5 月の国際協力ミライ会議、9 月のグローバルフェスタ JAPAN2024 等、各種の記念行事を実施。

9 月に開催したグローバルフェスタ JAPAN2024 は、昨年に引き続き対面とオンラインのハイブリット形式とし、2 日間の合計でリアル・オンライン全体で約 7.4 万人（うちリアルは約 4.9 万人）の御来場・御視聴をいただいた。出展ブースは NGO、NPO、国際機関、企業、大学、在京大使館など約 200 団体に上り、屋外会場も設置。会場規模及び来場者数も過去最大となり、国際協力 70 周年にふさわしい祭典となり、多くの方々に国際協力や ODA の意義を発信できた。

来場者アンケート結果によると、グローバルフェスタへの参加・視聴が初めての方が回答者全体の 67% を占め、また、「国際協力に興味を持った/今後参加したい」との回答割合は 97% となった。多くの NGO 関係者の協力を得て行うグローバルフェスタの開催は、普段国際協力と関わりの少ない方々に関心を持っていただく有効な手段。更なる理解の促進に繋げていけるかが今後の課題のひとつであるが、今後とも、NGO の皆様からの積極的な参加及び協力をお願いしたい。

12 月 17 日には、国際協力 70 周年の最後を飾るイベントとして、国際協力 70 周年記念シンポジウムを国連大学において開催予定（議題と登壇者を御案内）。これまでの国際協力の歴史を振り返るとともに、昨年改定された開発協力大綱を踏まえた新たな時代の日本の開発協力のあり方を展望する。当日はオンライン配信も予定しているため、御視聴いただきたい。

その他、国内外への広報も継続的に行っている。主な国内向け広報としては、毎月の ODA メールマガジンの発信（登録者数約 2 万人）や、教育機関等に外務省員が赴き ODA や国際協力全般について説明する「ODA 出前講座」は過去 10 年間に於いて合計 318 回開催し、約 3.2 万人の参加者を得た。コンテンツ制作としては、人気キャラクターを起用した「鷹の爪団の 行け！ ODA マン」の動画制作を行っており、これらを X(旧 twitter) の ODA 広報アカウント（フォロワー 1.3 万人）で発信している。また、海外広報としては、在外公館によるプレスツアー、パンフレット・動画等の広報物作成、ODA による供与品への日章旗マークの表示等の ODA 広報を実施。N 連案件等を通じた NGO による開発協力についても、積極的に広報しているところ。

以上